

調査・研究成果の展示公開（黒田記念館）（③美06-07-2/5）

黒田記念室は、当研究所の創設に深く関わった帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であり、黒田清輝の油彩画、素描、写生帖等を収蔵公開している。

創立当時、主として黒田家から寄贈されたものは、油彩画125点、素描170点、写生帖等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なものは、「湖畔」「智・感・情」（以上2作品は、国指定重要文化財）「花野」「赤髪の少女」「もるる日影」「温室花壇」などである。

2001（平成13）年1月より、2階部分の改修工事が行われ、従来の黒田記念室に加え、会議等に使用していた陳列室も展示室に改修、2室がギャラリーとなり、黒田清輝の作品を約50点展示することができるようになった。また、旧美術研究所所長室も、公開のスペースに改め、美術研究所時代の写真を展示し、パーソナルコンピューターを設置し、来館者にホームページを見ていただくコーナーとして活用するようにした。2002（平成14）年9月からは、それまでの木曜日公開に代わり土曜日も公開。平成15年度は7月から9月にかけて改修工事を行い、リフトやエレベーターの設置により施設のバリアフリー化をはかった。また同年度10月から記念館1階に黒田清輝作品の絵はがきや図録、額絵等、記念館のグッズを委託販売するコーナーを設けた。

今年度は記念館2階の一室を会場に、「特集展示 黒田清輝の素描作品」と題して、平成18年度に寄贈を受けた黒田清輝関係写真等から23点を選び、原寸大に複製した画像を展示公開した（会期：2007年11月15日～08年5月17日）。

一般公開（無料） 毎週木・土曜日 午後1時～4時

特別公開 2007（平成19）年10月30日～11月4日、入場者数 13,707人（2007年4月5日～08年3月29日）
なお、黒田記念室のパンフレット（A4サイズ、三つ折）を作成し、来館者に無料で配布した。

また2008年2月22日から3月15日まで、来館者にアンケートを実施した。1,502人の来館者に対して、598人から回答を得た（来館者数の39.8%）。回答は、「満足した」及び「おおむね満足した」98.5%、「不満が残った」6人（0.4%）、その他であり、アンケート回答の98.5%が満足感を得たことになる。

・地方共催展

当研究所は、黒田清輝の功績を記念し、あわせて地方文化の振興に資するために、1977（昭和52）年からの事業として「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝」展を年1回地方において行ってきた。平成19年度は下記のように開催した。

会場：平塚市美術館、会期：2007（平成19）年7月21日（土）～9月2日（日）

主催：東京文化財研究所、平塚市美術館、開催日数：38日、入場者：12,746人

陳列点数：油彩・パステル画85点、素描62点、写生帖17冊、書簡4通、日記5冊、参考出品2点、記録写真16点（以上、黒田記念館所蔵作品） その他油彩画1点、書簡1通を特別出品した。

図録：A4版変形、182ページ

また会期中の2007（平成19）年7月28日（土）、会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、161人から回答を得た（入館者数279人に対して、回収率57.7%）。満足度として「満足」、「おおむね満足」の回答が、100%をしめた。

研究組織

○田中淳（企画情報部）